

## 第 15 回駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日 時：令和 5 年 11 月 10 日(金) 13:00～14:30

場 所：大井川港管理事務所 3 階会議室

出席者： 高知工科大学 佐藤教授  
名古屋大学大学院 水谷教授  
静岡大学 原田准教授  
国土技術政策総合研究所 加藤海岸研究室長  
静岡県交通基盤部 山田河川企画課長（代理出席）  
中部地方整備局河川部 川上河川調査官  
静岡河川事務所 阿部事務所長

### <議事>

#### ○資料 1：住吉工区の粘り強い海岸堤防の構造検討について

- ・天端被覆工に作用する津波外力について、津波越流時の挙動は、水理模型実験からのみでは不明確であるため、設計上の安全側として天端被覆工下面からの鉛直上向きの水圧（揚圧力等）は見込まないほうが良いと考える。
- ・本委員会での検討結果を受け、事務局で詳細設計を進めるという方針について了承した。
- ・陸間と直立堤との接続部分の構造検討は、直立堤の増厚が可能かどうか、陸間の構造を考慮し、詳細設計で検討していただきたい。

#### ○資料 2：モニタリングの実施状況について

- ・漁船ビッグデータは、深浅測量実施時期とデータ取得時期が重なるようであれば、両者の成果の比較をして漁船ビッグデータの精度を確認していただきたい。
- ・漁船ビッグデータの対象範囲について、漁船航行実績が乏しい浅海域のデータ取得可能性についても検討していただきたい。
- ・CCTV カメラの画角操作は、他海岸での事例も参考に自動化に向けた検討を実施していくと良い。
- ・新しいモニタリング手法についてのキーワードとして、「安価」を挙げているため、各手法のコストについても比較していただきたい。
- ・各手法について、駿河海岸での活用に限らず、全国に展開できるような取りまとめをお願いしたい。

○資料 3：漂砂管理計画（案）について

- ・ 1965 年から 1975 年の地形変化（急激な侵食）のメカニズム解明は年に 1 度の測量成果からでは難しい。1975 年頃の水深 10m 付近の流況調査結果があれば、当時の侵食メカニズム推定に繋がる可能性がある。
- ・ 河口砂州を構成する底質粒度組成の平面分布を確認し、粒径による挙動の違いについて考察できないか。
- ・ 河口部および川尻工区の地形変化については、河川流による河口砂州の沿岸方向・岸沖方向の位置の影響が大きい可能性がある。
- ・ 駿河海岸は、外力・地形ともに豊富なデータがあるという強みがある。モデル構築にこだわり過ぎず、データから将来を推定することも重要である。
- ・ 漂砂管理計画における養浜のランニングコストを縮減できるよう、総合土砂管理など河川と連携した対策について引き続き検討していただきたい。

以上